

地球温暖化対策結果報告書

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 地球温暖化対策事業者の氏名等

地球温暖化対策事業者	法人の名称	株式会社 世界貿易センタービルディング
	法人の代表者又は管理者の氏名	代表取締役社長 高橋 弘長
地球温暖化対策事業者の住所 (法人にあつては主たる事務所の所在地)		〒 105-6104 東京都港区浜松町2-4-1

(2) 事業所の概要

事業所の名称(ひらがな) ※法人格(株式会社など)は省略して記入。	せかいぼうえきせんたーびるでいんぐ	
事業所の名称	世界貿易センタービルディング	
事業所の所在地	〒 105-6104 東京都 港区浜松町2-4-1	
業種等	業種	71 不動産賃貸業
	業務部門における建築物の主たる用途	<input checked="" type="checkbox"/> 事務所 <input type="checkbox"/> 百貨店 <input type="checkbox"/> その他の各種商品小売業 <input type="checkbox"/> その他の卸・小売業 <input type="checkbox"/> 飲食店 <input type="checkbox"/> ホテル、旅館等 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 病院、医療施設等 <input type="checkbox"/> その他のサービス業
事業の概要	1. 建物賃貸 2. 不動産販売 3. 直営事業(結婚式場、駐車場、バスターミナル)	
計画期間	平成14年4月1日 ~ 平成17年3月31日	

(3) 地球温暖化対策計画書の内容の公表方法等

公表期間	平成14年4月1日	~	平成17年3月31日
公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ アドレス http://www.wtcblgd.co.jp		

(4) 担当部署

対策結果の担当部署	名称	施設管理部	
	連絡先	電話番号	03-3435-3746
		ファクシミリ番号	03-3435-6054
		電子メールアドレス	
公表の担当部署	名称	総務部	
	連絡先	電話番号	03-3435-3711
		ファクシミリ番号	03-3435-6054
		電子メールアドレス	

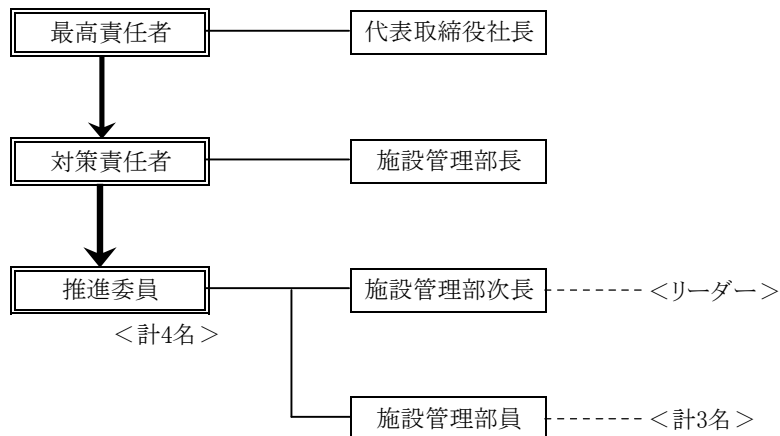
(5) 地球温暖化の対策の推進に関する方針等

ア 地球温暖化の対策の推進に関する方針

省エネルギー等の地球温暖化対策に積極的に取り組み、平成16年度までに以下の目標を達成します。

1. 事業所で使用する、他人から供給される電気使用量を、平成13年度比6.6% (155万kWh) 削減する。
平成13年度の、他人から供給される電気使用量実績値:2,355.0(万kWh)
平成16年度目標:155万kWh削減・・・2,355(万kWh) - 155(万kWh) = 2,200(万kWh)
2. 事業所で使用する、都市ガス使用量を、平成13年度比1.4% (36千Nm³) 削減する。
平成13年度の、都市ガス使用量実績値:2,536.0(千Nm³)
平成16年度目標:36千Nm³削減・・・2,536(千Nm³) - 36(千Nm³) = 2,500(万kWh)

イ 地球温暖化の対策の推進体制



2 温室効果ガスの排出の状況

年度別の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）

(単位 t)

排出活動	年度	基準年度	14年度	15年度	16年度
燃料の使用		5454	5455	4687	5110
他人から供給された電気の使用		8409	7896	7827	7896
他人から供給された熱の使用					
ガス機関における燃料の使用		1	0.77	0.66	0.75
ディーゼル機関における燃料の使用					
自動車の走行					
他人から供給された水の使用					
公共下水道への排水					
他人への委託による一般廃棄物の焼却					
合計（総排出量）		13864	13351.77	12514.66	13006.75

3 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガスの排出の抑制目標の達成状況

抑制目標（計画）	目標の達成状況
<p>①排出量目標値 13,229.0t・・・(基準年度排出量 13,864.0t)</p> <p>②排出削減率目標値 4.6%・・・(基準年度排出量に対して)</p> <p>③目標設定の考え方</p> <p>1.平成13年7月より稼働を開始した、コージェネレーションシステム(能力1,500kWh)の通年運転、また、運転効率を高める運用を図る。</p> <p>2.平成14年6月より運用を開始する水蓄熱槽の利用により、CO2排出量の少ない深夜電力の活用と冷凍機の効率運転を図る。</p> <p>3.平成13年3月より稼働を開始した太陽光発電を利用する。</p>	<p>①排出量実績値 13,006.8t・・・(目標値13,229.0t) →温室効果ガス排出削減量実績値は、目標値を上回り大幅に削減ができた。</p> <p>②排出削減率実績値 6.2%・・・(目標値4.6%) →温室効果ガス排出削減率実績値も、目標値を大きく上回る数値となった。</p> <p><結果> 温室効果ガスの排出の抑制に対する目標を達成できた。</p> <p>⇒排出削減量 6.2%(≧目標値4.6%)達成</p>

(2) 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標の達成要因又は未達成要因

<p>目標の達成要因</p> <p>1.コージェネレーションシステムの効率運転 平成13年7月より稼働を開始した、コージェネレーションシステムの効率的な運転を行い、電力のピークカット、負荷平準化及び排熱の有効利用等で省エネルギーを実現し、温室効果ガスの排出量を削減した。</p> <p>2.水蓄熱槽による深夜電力利用 平成14年6月より運用開始した水蓄熱槽を利用し、昼間電力を深夜電力に移行することにより、冷凍機の効率的な運転ができ、負荷平準化に貢献するとともに、温室効果ガスの排出量を削減した。</p> <p>3.太陽光発電設備の利用 平成13年3月より稼働を開始した太陽光発電設備により、無尽蔵でクリーンなエネルギーである太陽光を有効利用することで、温室効果ガスの排出量を削減した。</p>

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

(1) 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

措置の区分	計画の内容		取組の状況	
	措置の内容	措置の目標	措置の内容	措置の目標
エネルギーの使用の合理化	1.コージェネレーションシステム(1,500kWh 平成13年7月稼働開始)の効率運転 2.太陽光発電(出力80kW 平成13年3月稼働開始)の有効利用 3.空調設備への水蓄熱槽の導入(水槽容量2,260トン 平成14年6月稼働開始予定)による、深夜電力の活用と冷凍機の効率運転	1.年間発電量530万kWhを目標とした運転を行い、買電量、及び既存ボイラー燃料使用量を削減する。 2.年間発電量8万kWhを目標とする。 3.年間150万kWhを深夜電力に移行する。	1.コージェネレーションシステム(1,500kWh 平成13年7月稼働開始)の効率運転 2.太陽光発電(出力80kW 平成13年3月稼働開始)の有効利用 3.空調設備への水蓄熱槽の導入(水槽容量2,260トン 平成14年6月稼働開始予定)による、深夜電力の活用と冷凍機の効率運転	1.年間発電量523万kWhの運転を行い、買電量、及び既存ボイラー燃料使用量を削減した。 2.年間発電量平均6.5万kWhを発電した。 3.年間217万kWhを深夜電力に移行した。

(2) その他地球温暖化対策に係る措置の達成状況

措置の内容(計画内容)	措置の状況(計画内容)